

私たちにできることは 「忘れないこと・想うこと」 矢野きよ実さん 講演

名古屋学芸大学 青年赤十字奉仕団 ハートフル♡エデ
「忘れないこと」「伝えること」「続けること」

名古屋学芸大学青年赤十字奉仕団の学生12人は、震災から一年後、石巻市でボランティアを行いました。仮設住宅の高齢者とのふれあいと、大川小学校と門脇小学校の残された校舎を見て、そう思いました。

今、被災地が、被災地の人々が、子どもたちが、どのような日々を送っているのか、知ってください。私たちに何ができるか、震災から何を学んだか、自然災害から自分を守るには、災害弱者を守るにはどうすればいいのか、一緒に考えてください。

矢野きよ実 PROFILE

名古屋市大須生まれ。15歳でモデルデビュー。現在は下町育ちの飾らないトークが老若男女に好評でさまざまな番組のパーソナリティを努める。

また書道家として青花（しょうか）の雅号をもつ。これまで数多くの賞を受賞。

2005年から松坂屋本店で開催されている「矢野きよ実の書」は連日大盛況。

テレビ・ラジオ番組をはじめ、愛知県警、キャラクターをつとめるKIRIN ビールやANA など多数の題字を担当。

ニュースの職人鳥越俊太郎さんや、ハリウッド俳優クリント・イーストウッドさんをはじめとするアーティスト達の間で「無敵バッジ」が本人も驚くほどの広がりを見せている。

●AEDの普及や幼児虐待のためのシェルター「パオ」設置など積極的に応援。地元では協議委員を務め防犯活動に貢献。

●2010年国際会議COP10広報アドバイザー。

●開府400年記念事業「夢なごや400」実行委員。

●24年度冬季国体PRサポーター。

●ピンクリボン名古屋応援アドバイザー。

●2012年特定非営利活動法人 愛知万博記念災害・救急医療研究会理事に就任。

被災地支援（無敵プロジェクト）

私たちにできることは「忘れないこと・想うこと」

2011年3月11日の震災直後から日本赤十字愛知県代表として視察のため医師団と被災地に入る。壊滅的な被害を受けた日本の硯シェア90%を誇る硯のまち宮城県石巻市雄勝の地に立ち、その際ガレキの中から出てきた傷だらけの硯と出逢う。毎月名古屋から1800キロ、宮城・岩手の被災地の子どもたちと「心の声」を聞きながら一緒に書を書いている。

昨年末、日本赤十字社名誉総裁の秋篠宮妃殿下式典後に講演。

NHK ヒューマンドキュメンタリー「書は心を開く」がオンエアされ、各方面から多くの反響をよんでいる。

髭の殿下寛人親王が、ご自身で大居間外壁に矢野きよ実の書「生きている生きてやる生きたい君のために」を飾られ力にされていた。

